

知って備える 防災メモ

第43回



女性の視点を生かした 男女が共に助け合う防災体制づくり

災害が起きたときは、女性や子どもなどのさまざまな人が、互いに助け合わなければなりません。

人が共に助け合うため、おのおのが持てる能力を最大限に発揮できるように、性別や年齢の違いを十分に理解し、互いの意見を尊重できる防災体制を構築することが重要です。



『気付き』を伝える環境づくり

防災への取り組みは男性が中心となっていることが多いですが、避難所の運営などには、女性の視点が必要です。女性が抱く疑問や改善点などが運営側に伝わらなければ、その『気付き』が無駄になってしまいます。

日頃、町内会などで行われている防災訓練や研修会に参加し、『気付き』を伝えることのできる環境をつくることも、大切な防災活動となります。

『のぼじょネット』の活動

女性の視点を防災に生かすことを目的とした組織『のぼりべつ女性防災ネットワーク会議』（通称のぼじょネット）は、平成27年度に避難所運営などの女性参画について、提言書を提出するなど、防災への女性参画のために活動しています。

防災訓練に参加するときは、女性の視点で防災を考えることの大切さを共有し、要配慮者となる人たちへの心配りや、女性が災害などに直面する課題について考え、男女が共に助け合うことのできる防災体制について意識してみましよう。



▼問い合わせ
総務グループ

(☎⁰⁵1130)

人が輝き まちがときめく

仲間たち

Group

フラワーサークルデイジー



大切な人にフラワーアレンジメントの作品をプレゼントしてみませんか

『フラワーサークルデイジー』は、代表の三平^{みひら}まりなさんがフラワーアレンジメントのインストラクターの資格を取得したことをきっかけに、一緒にフラワーアレンジメントを楽しめる人を募集して、平成28年1月に発足した新しいサークルです。現在、会員は50代から60代までの女性11人。毎週木曜日の午前（10時30分から）と午後（13時30分から）に鶯別公民館で活動しています。

三平さんは、「同じ花材を使っているメンバーそれぞれの個性が表れるので、お互いの作品を見て評価し合うことが楽しみになっています。みんなと一緒に話し合い、良いアイデア



▲形や組み合わせを意識しながら花を生けるメンバー

を出し合って、和気あいあいと活動を続けていきたいです」とサークル活動への思いを語ってくれました。

完成した作品はプレゼントする人も多く、同サークルでは、生花に特殊保存加工をすることで、長期間その美しさを保つことが出来る『プリザーブドフラワー』のフラワーアレンジメントも行っています。

「みんなと楽しく話しをしながら、完成した作品の写真を撮ったり、部屋に飾ったり、大切な人へプレゼントしたりと、花のある生活を送ってみませんか」と三平さんは入会を呼び掛けます。

入会を希望する方は、三平さん（☎090-9518-12868）まで。